

はじめに

今年、墨田区立第一寺島小学校は開校 146 周年を迎えます。

11 月に開催された「一寺小同窓会」は第 156 回目となりました。開校 146 周年なのに同窓会が 156 回もあるのはなぜでしょうか。それは、かつて男女が同じ会場で懇談できなかった時代に、男子会と女子会を別々に、年 2 回開催していた時期があったからです。開催方法は時代と共に変化しましたが、いつの時代でも大切に受け継がれてきた伝統ある会です。今年も、昨年度の卒業生や二十歳を迎えた卒業生を中心に、多くの同窓生が体育館に集まり、懐かしい話に花を咲かせていました。

さて、少し国語も振り返ってみたいと思います。平成元年の小学校学習指導要領では、国語科を「表現」と「理解」に分け、それぞれ育成すべき資質・能力を示しています。その中には、

「5・6 年生 B 理解 エ 文章の叙述に即して、細かい点にまで注意しながら内容を正確に読み取ること」

と記されています。私が若い頃は、初発の感想から問いを設定し、場面ごとに読み取り、最後に学んだことを発表するという流れが一般的でした。また、「初読・精読・味読」という学習過程も大切にされていました。

さらに、平成 11 年の学習指導要領解説（国語編・オレンジ色）では、「改定の基本方針」として次のように示されています。

「特に、文学的な文章の詳細な読解に偏りがちであった目標の在り方を改め、自分の考えをもち、論理的に意見を述べる能力、目的や場面に応じて適切に表現する能力、目的に応じて的確に読み取る能力や読書に親しむ態度を育てることを重視する。」

この頃から、改定の要点として言語活動例が掲載されるようになりました。本日ご講演いただく水戸部修二先生も、その作成協力者として関わっておられます。

そして、平成 29 年度告示の現行学習指導要領では、国語科の目標に

「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。」

とあります。本校の研究も、このことを踏まえ、言語活動の充実を研究の柱として位置付けています。

このように、振り返ってみると、その時代に応じた国語指導のあり方があります。本校は研究推進委員長を中心に研究を進めておりますが、まだ途上です。男子会と女子会を分けて懇親会を開いていた時代のような古い枠にとらわれることなく、一方で時代を超えても大切にすることを見極めながら、社会や児童の実態に合ったよりよい授業を目指しています。今後とも、皆様からのご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

墨田区立第一寺島小学校
校長 高橋 誠人